

## ポジションと役割について

バスケットボールには大きく分けてガード (G)・フォワード (F)・センター (C) のポジションがあります。

ガード (G) は更に、ポイントガード (PG)・シューティングガード (SG) に分けられます。

PG はボール運びと試合のコントロールがメインの仕事です。いわゆる司令塔と呼ばれる役割です。

ですから、ドリブルやパスが上手くて視野が広く、バスケットを良く理解できている選手が起用されます。

PG には背の低い選手が多いですが、それはドリブルに関しては背が低い方が有利だと言われているからです。

SG は PG のサポートと長距離からのシュート、更にカットインして相手ディフェンス (DF) をかく乱したりする役割を負うポジションで現代バスケットの花形ポジションと言われています。F も更にスモールフォワード (SF) とパワーフォワード (PF) に分けられ、SF はドリブル・パス・シュート三拍子揃った万能選手がこのポジションです。

PF は SF に比べてゴール下での仕事が多いです。

C はゴール下に張り付いてリバウンドやゴール下でのシュートなどを担当します。守備の時は1番後ろにすることが多いので守備を統率する担当をすることも多いです。

普通、チームで一番背の高い選手がこのポジションにつきます。

PG・SG・SF・PF・C を順番に1番・2番・3番・4番・5番という番号で呼ぶこともあります。

ただ、バスケットではこのポジション付けは絶対ではなく場面によっては C が PG をやったり、F が C をやったりすることもあります。またセンターとフォワードの間みたいなセンターフォワード (CF) とかガードとフォワードを両方やるガードフォワード (GF) といったポジションもあるので、あまりポジションにこだわらず、ある程度どのポジションにも対応できることが理想です。

